# Bookstart Newsletter

ブックスタート・ニュースレター

2023 春 No.80

沖縄県那覇市

特　集

## 喜び、楽しみ、うまんちゅ（みんな）で

### ～ 沖縄県３自治体の取り組みから ～

現在、沖縄県では41市町村のうち、28市町村でブックスタート事業が実施されています。２０２２年度は、うるま市、北中城村、与那国町で新たに事業が始まりました。２０２３年度には久米島町でも開始が予定されており、活動の輪がじわじわと広まっています。

沖縄では昔から、「ゆいまーる（助け合い）」の精神が地域に根付いています。出生数や規模、地域の特性は違えども、互いを尊重し、ゆるやかにつながりあうことを大切にする、そんな沖縄の風土の中で行われるブックスタートには、「連携」という言葉だけでは表しきれない、深さとあたたかさがあるように感じます。

今回の特集では、２０２３年１月に訪問した与那国町、那覇市、糸満市の取り組みをご紹介します。赤ちゃんを中心に、この地で、この時代を生きる人たちが、うまんちゅ（みんな）で、「喜びを共にする」――。３地域の方々の言葉には、ブックスタート事業を行う「喜び」と、子ども達が生き生きと健やかに育つ未来への「願い」、そしてそれを自分たちの手で実現させようとする「決意」がこもっていました。

## 与那国町（よなぐにちょう）
# 絵本の楽しみを、島の赤ちゃんに

### 初めてのブックスタート

2023年1月28日、日本最西端の島、沖縄県与那国町で初めてのブックスタート事業が行われました。この日、対象となったのは、乳児健診に参加した3人の赤ちゃんです。広報を見て協力を申し出たボランティアが、赤ちゃんに読みきかせをし、2冊の絵本をラッコのバッグに入れてプレゼントしました。

読み手をじっと見つめたり、一緒に「あー、あー」と声を出したり――。赤ちゃんたちは絵本を読んでもらう嬉しさを、全身で表していました。

年３回、島外から小児科医を招いて行う乳児健診で実施

### 島を離れての出産

与那国町の2022年の出生数は14人。3人の保健師が赤ちゃんからお年寄りまで全島民の健康を支えています。島では出産ができないため、出産の1か月ほど前には、島外に出る必要があります。出産後、すぐ島に戻る母子もいれば、しばらく経ってから戻ってくる母子もいます。

町では渡航にかかる飛行機や船代、宿泊費を助成していますが、経済的な負担も少なくありません。保健師はそれぞれの状況を丁寧に聞き取り、時には同じ島の生活者としての視点も加えながら、親子をサポートしています。

年に数回、台湾の山並みが見えることも

### 子育てを経て強めた、ある思い

町では2008年度より、赤ちゃんの出生時に絵本をプレゼントしていましたが、読みきかせは行っていませんでした。各地で読みきかせの「体験」も届けるブックスタート事業が広がりを見せるなか、その評判を耳にした保健師たちは自身の子育ての経験も踏まえ、その場で読みきかせを行う意義を強く感じたといいます。「もっと丁寧に手渡したいね」と折にふれて話題にはなったものの、少ない人員でやりくりしているため、すぐに動くことはできませんでした。そして、職員の産休や育休が落ち着いた2022年度、「今ならできる！」と判断。地域の人たちに協力を求め、「体験」を届けるブックスタートの開始に踏み出しました。

## VOICE

与那国町長寿福祉課 保健師　**尾辻（おつじ） 史華（ふみか）** さん

**この楽しさを、みんなに**

子どもって、本当に本を読んでもらうのが好きなんですよね。それは私の想像以上で、子育てを通じて驚いたことの一つでした。プレゼントした絵本が親子のコミュニケーションを促すものとして、さらには、地域と親子を結ぶものとして機能してほしいという保健師としての期待もありますが、その手前に「この楽しさを、みんなに届けたい」という気持ちが強くありました。だから、どうしてもブックスタートをやりたいな、と思ったのです。

ボランティア　**門﨑（かどさき） 志保（しほ）** さん（写真右）

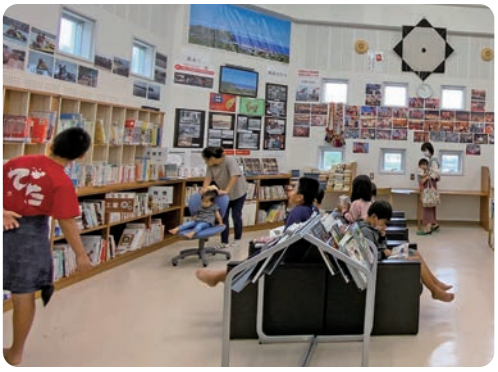
**島ぐるみで子育てを応援！**

本が好きで、活動に興味をもちました。与那国には夫の転勤でやってきたのですが、島の人と知り合うきっかけにもなって嬉しいです。これから活動の幅を広げていきたいです!

＊写真左から竜門（りゅうもん）さん、鹿川（かがわ）さん、門﨑さん

## 24年ぶりに図書室が開館

ブックスタート事業の開始に先立つ2022年8月、町に24年ぶりに図書室が開館しました。かつて図書室は、中央公民館に整備されていましたが、施設の老朽化と職員の不在などにより1998年から休眠状態でした。教育委員会が2018年に実施した公立図書館に関するアンケートによると、町民のおよそ8割が図書館（室）を「必要」と回答したといいます。町には書店がありません。ブックスタート事業の始まりを受け、絵本や児童書の充実にも力を入れています。取材当日も、子どもたちが熱心に本を選び、親子で借りていく姿が見られました。



「本を手に取って見られるのは嬉しい」という声が聞かれます

## 那覇市（なはし） 事業開始20年。赤ちゃんの笑顔と出会う喜び

### 一日の対象者127人、一人ひとりに届ける

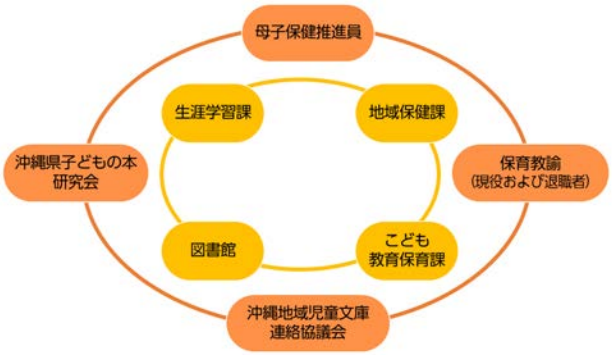
「この子が選んだ本だから、たくさん読んであげたいです」

2023年1月15日、沖縄県那覇市の乳児後期（9～10か月児）健診には、午前72人、午後55人、合計127人の赤ちゃんが参加しました。問診や計測などを終えた赤ちゃんは、最後にブックスタートの部屋に案内されます。

お母さんとおばあちゃんと一緒に会場にやってきた赤嶺仁胡（にこ）ちゃんは、机に置かれた5冊の絵本から、1冊に手を伸ばし、パタパタとページをめくり始めました。「これがいい？」ボランティアがその絵本を読むと、にっこり笑顔。「こっちはどうかな？」と他の絵本も読みましたが、再度この絵本に手を伸ばします。お母さんは冒頭の言葉とともに、仁胡（にこ）ちゃんが選んだ絵本を笑顔で手にしました。

### 子育てと読書と母子保健、分野を超えた連携体制

那覇市は2003年に事業を開始。今年で20年目を迎えます。当初から子育てに関わる行政4部門に、本や地域の親子をよく知る沖縄県子どもの本研究会と沖縄地域児童文庫連絡協議会、そして子どもの育ちに詳しい母子保健推進員がボランティアとして協力（左図）。保育園の先生も活動に参加するなど、立場や分野を超えた連携体制が築かれています。




那覇市ブックスタート連携体制

行政4部門では定期的に運営委員会を開催し、情報を共有しています。

### 約2年間休止した「読みきかせ」を再開

コロナの影響で2020年10月から2022年3月まで集団健診が個別健診に移行し、健診会場でのブックスタート事業が休止した際も、どうにかして親子に絵本を届けようと、この強固な連携体制が力を発揮しました。まずは、図書館など市内9か所で絵本を受け取れる体制を構築。沖縄県

まっすぐな瞳で読み手を見つめます

子どもの本研究会は、絵本に関する電話相談の窓口を設けました。市のSNSでも情報を発信し、広報にも力を入れた結果、対象者の約半数が絵本を受け取りに来てくれました。しかし、残り半数に届けられず、運営委員会は課題として認識。2022年4月から集団健診の再開が決定した際には、すべての赤ちゃんに平等に機会を届けるためにも、集団健診と同時にブックスタートを再開しました。

パパのお膝で絵本のひととき

ネパール出身のご夫婦と赤ちゃん「いま読んでもらったように、家でも読んであげたいと思います」

## VOICE

沖縄県子どもの本研究会
**平良 京子（たいら きょうこ） さん**

### 親子の姿に、疲れは吹き飛びます

ブックスタートの再開が決まった時には、「やっと赤ちゃんたちに会えるね!」と皆で喜びました。キャッキャと声を出し、笑う赤ちゃんに、改めて絵本の持つ不思議な力を感じています。現在は1組ごとに絵本、椅子、机、手指の消毒を行い、保護者もスタッフも安心して参加できるように心がけています。手間は増えましたが、笑顔で会場を後にする親子の姿に、疲れは一気に吹き飛びます。

押すとピッと音がでるボランティアの名札は、20年前から赤ちゃんに人気▲

那覇市教育委員会生涯学習課
**小浜 加廉（こはま かれん） さん**

### これからも、親子に安らぎの時間を

2021年度に新規採用職員として生涯学習課に配属され、ブックスタート事業の担当になりました。コロナ禍でできることが少なく困った状態でしたが、集団健診とともにブックスタートも再開でき、ホッとした気持ちです。2023年には、那覇市のブックスタート事業が20年を迎えます。事業継続には、新しいスタッフの育成等、様々な課題もありますが、今後も親子にふれあいや安らぎの時間を届けていきたいです。

## 糸満市（いとまんし）：頑張るお父さんとお母さんをパワフルに応援！

### 瞳が輝く瞬間をとらえる

「ほら、お母さん、今の赤ちゃんの顔を見てあげて!」

赤ちゃんの瞳が輝く、この瞬間を逃すまいと、スタッフが声をかけます。赤ちゃんの表情を見てもらうことが、絵本を家でもひらいてみようと思う一番のきっかけになると考えているからです。

沖縄県糸満市では、「お父さんとお母さんを応援する」ことを第一に、活動に取り組んでいます。

現在はアクリル板越しに読みきかせ
毎回約70組が対象です

## 求められる「見守り相談」

糸満市では生涯学習課を事務局に、2011年から3～5か月児健診でブックスタートを実施。会場には、各課との連絡調整等を担当する社会教育指導員と、「読みきかせ」と親子の「見守り相談」を役割とするブックスタート推進員が出向いています。保護者から特に好評を得ているのが、この「見守り相談」です。読みきかせ役とは別に、毎回3名を配置。保護者の声に耳を傾け、必要があれば適切な機関につないでいます。コロナ禍で一時、見守り相談役なしで実施した際には、保護者から「今日は相談にのってくれる方がいなくて残念」という声が聞かれました。その言葉に、市では絵本を届けるだけではないブックスタートの役割を再認識し、翌月から活動を再開させました。

ブックスタート推進員の皆さん

## 「セカンドブック事業」開始を検討

第3次糸満市子どもの読書活動推進計画（2021年7月策定）には、2024年度を目安に、ブックスタート後、再度絵本をプレゼントする「セカンドブック事業」と、図書館での「赤ちゃんタイム」を開始する旨が記載されています。背景には、読みきかせを行う家庭がまだ多くないことに加えて、ブックスタート事業を評価し、子どもの成長にあわせた継続的なサポートを求める保護者や関係者からの声がありました。現在、勉強会などを行い、立ち上げに向けて体制を整えています。

## VOICE

ブックスタート推進員
**玉城（たまき） 米子（よねこ） さん**

### お父さん、お母さんの力に

人知れず悩みを抱えながら、頑張っているお父さんやお母さんたちの力になりたいと、市の子育て支援事業に関わっています。応援してきたお母さんたちが、第2子、第3子を連れてブックスタートにやってくることもあり、とても嬉しく感じています。

糸満市中央図書館 館長
**金城（きんじょう） 毅（つよし） さん**

### 「未来」を見据えて

行政の事業は、効果を示すことが求められます。確かにブックスタートなどの子育て支援は、その効果がすぐに数値に表れるものではなく、確認しにくいものかもしれません。しかし、可能性や未来に投資できない国や自治体は先細りします。乳幼児を大切にする事業は、箱物を造るよりはるかに効果的な投資といえるのではないでしょうか。

糸満市教育委員会
生涯学習課
**前門（まえじょう） 慧（けい） さん**

### この光景を見てほしい！

「何も分かっていなかった。」会場での光景を見た私が、最初に感じたことです。絵本は読むためのものと思っていた私の考えは、一瞬で無くなりました。表情、読み方、ページのめくり方、動きなど様々な「変化」を加えることで同じ絵本でも全く違うものになる。赤ちゃんの反応、そして、それを見たお母さん、お父さんの驚きの表情。この光景を多くの人に見てほしい、絵本の本当の価値を知ってほしい、そう感じました。こんなに素晴らしいブックスタートを糸満市に住むすべての赤ちゃんとその保護者に体験してもらえるよう、これからも業務に当たっていきたいです。

＼多言語対応資料 第３弾！／

# 外国人親子を歓迎♪
# 13 言語であいさつポスター

やさしい日本語…
英語…
中国語…
韓国語…
ポルトガル語…
スペイン語…
タガログ語…
ベトナム語…
…ネパール語
…ヒンディー語
…タイ語
…インドネシア語
…シンハラ語
…ミャンマー語

●ラッコがいる「海」をイメージした楽しいデザインです♪

「ブックスタートって何？」
「外国人でも絵本をもらえるの？」
「絵本を買わされるのでは……？」

日本語が理解しづらく地域の情報が入りにくい外国人親子のなかには、ブックスタートを知らない方が多くいます。そのため、事情が分からずとても緊張して会場にやってきたり、参加しなかったりする場合があります。
そうした親子にも安心して参加してもらえるよう、多言語対応あいさつポスターを会場に掲示してみませんか？

PDF で提供しています！
ダウンロードはこちら▶

●各言語の監修
東京都つながり創生財団
カイ日本語スクール
友国際文化学院

## point 1 やさしい日本語＋13 言語

「やさしい日本語」と、「ブックスタート紹介シート」で対応している 11 言語にシンハラ語、ミャンマー語を加えた 13 言語を併記しました。この 13 言語は 0 ～ 1 歳の在留外国人の約 9 割*をカバーしています。

＊在留外国人統計（法務省 /2022 年 6 月）および各国の主な公用語に関する情報をもとに集計。

## point 2 「母語のあいさつ」で歓迎していることを伝える

母語であいさつされると誰でも嬉しいものです。ポスターには各言語の「こんにちは」を読み方のルビもふって掲載しています。会場入口に掲示して、親子の母語であいさつをしてみませんか？ 住民として歓迎していることが自然な形で伝わります。

## point 3 絵本をプレゼントしていることを分かりやすく紹介

外国人保護者のなかには、費用がかかることを心配する方がいます。写真から楽しい雰囲気が伝わり、自治体が無料で絵本をプレゼントしていることを分かりやすく伝えることで、安心して参加してもらえます。

## 活用例 ブックスタート会場の入口に掲示

●A3 に出力した場合。スペースによっては A4 でも。

20 周年ポスターやラッコのポスターと並べて掲示すると、より目をひきます！

＼参考にしたのは、このポスター！／

**神奈川県藤沢市**では、9 言語で「こんにちは」にあたるあいさつを書いたポスター（左）を、会場入口に掲示しています。
母語のあいさつを見て、嬉しそうな表情を浮かべる保護者もいるそうです。

2022 年度
## 2 つの会議に参加しました！

### 文部科学省

### 「子どもの読書推進に関する有識者会議」

(2022 年 6 月～ 11 月／全 6 回)

「第 5 次子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」の策定に向け、委員として参加。ブックスタート事業の全国での広がりや、「シェアブックス」の理念、すべての赤ちゃんを対象とするための取り組みなどについて紹介しました。

計画は 2023 年 3 月 28 日に閣議決定。基本方針として「不読率の低減」「多様な子供たちの読書機会の確保」「デジタル社会に対応した読書環境の整備」「子供の視点に立った読書活動の推進」の 4 点が掲げられています。ブックスタートは、読書活動に対する「乳幼児期からの切れ目ない支援」を促進する取り組みとして、また「家庭での読書習慣化を促進」する取り組みとして位置付けられています。

第 2 回会議では活動の広がりを紹介

### 国際子ども図書館

### 「子どもの本と読書に関する懇談会」

(2023 年 2 月)

日本初の国立の児童書専門図書館として 2000 年に設立された「国際子ども図書館」が主催。子どもの本に関わる機関・団体が参加し、近況報告や意見交換を行っています。

ここ数年は、コロナ禍における取り組みや課題が話題になっています。当 NPO からは、対面での読みきかせの実施が難しい状況が各地で続くなかでも、オペレーションや会場設営を工夫し対応している地域が増えてきていること、また、コロナ禍だからこそ、シェアブックスという活動の意義が見いだされ、新規事業として開始する自治体もあることなどを紹介しました。

### 専門家から

NPO 法人おおさかこども多文化センター
**梨木 亜紀** さん　Aki Nashiki

©OKoTaC

[profile] 外国にルーツのある子どもの教育支援活動に従事。「多文化にふれる えほんのひろば」や大阪市の人権絵本の多言語翻訳版作成など、絵本を使った母語支援、多文化共生活動を担当している。

### 「行ってもいいの？」
### ～安心して参加してもらうためにできること

以前、ある保護者から「ブックスタートで絵本をもらえると聞いたけれど、外国人の私も行ってもいいの？」と聞かれたことがありました。私たちが思っている以上に、参加することに対する敷居は高いのかもしれません。

まして何をしているのか分からないと、より敷居は高くなります。乳児健診は健康に関わることなので、保護者は大変な思いをしても頑張って参加しますが、それ以上は「もういいや」となってしまいがち。ですから、絵本を無料でプレゼントしていることを分かりやすく伝えることは、とても大きな意味があると思います。

### 母語でのあいさつは、保護者の自信につながる

保護者のなかには「私の母語は、日本では必要とされていない」と感じている人がいます。そうしたネガティブな気持ちはどうしても子どもに伝わり、母語に対してマイナス感情を持った子どもから、「恥ずかしいから、外では母語で話しかけないで」と言われてしまう状況も生まれています。

でも、ブックスタート会場に母語のポスターがあると、保護者は「歓迎されている」「母語が認められている」と感じることができます。その思いが、子育てをする上での安心感と、自信につながっていくのではないでしょうか。

※ 当 NPO 発行の多言語対応資料には ①「ブックスタート紹介資料」②「絵本紹介シート」もございます。併せてご活用ください。詳しくは、自治体支援担当までお問い合わせください。

## 子ども・社会を考えるシリーズ 新刊 のお知らせ

＼ご注文はこちら／

2022 年 2 月に行われた「子ども・社会を考えるシリーズ 講演会」の記録が冊子になりました。
みんなが心地よく暮らせる地域社会をつくるヒントが満載です。ぜひご覧ください！

NEW

### つながりあう力 ～官民協働で社会をつくる～

村木厚子（元厚生労働省事務次官）

国家公務員として、女性や障害者の社会進出に尽力してきた村木厚子さん。子育ての孤立や広がる格差などの社会課題にどう向き合えばよいのか……。自身の子育て体験と、自ら足を運び地域の人々の声を聴く中で学んだのは「おたがいさま」の精神が課題解決の第一歩ということでした。
行政・民間という立場に関わらず一人ひとりの「市民」がつながりあうことで、社会資源はより豊かになるという確信を胸に、現在も、困難を抱える人に寄り添う伴走型支援の構築に取り組みます。

●770 円（税込） ●52 ページ ●2023 年 4 月発行 ●A5 サイズ ●ソフトカバー

### 既刊

- 赤ちゃん・絵本・ことば　谷川俊太郎（詩人）
  660 円（税込）／56 ページ／2015 年 1 月発行
- 赤ちゃん ～ゆりかごの中の科学者～　榊原洋一（小児科医）
  550 円（税込）／52 ページ／2016 年 3 月発行
- 社会で子どもをはぐくむ　武田信子（臨床心理士）
  550 円（税込）／44 ページ／2017 年 3 月発行
- すべての赤ちゃんに絵本を　ウェンディ・クーリング（ブックスタート発案者）
  660 円（税込）／96 ページ／2019 年 1 月発行
- 絵本はコミュニケーションツール　スギヤマカナヨ（絵本作家）
  660 円（税込）／38 ページ／2020 年 2 月発行
- 人類の育児スタイルは共同養育　明和政子（比較認知発達科学者）
  660 円（税込）／54 ページ／2020 年 2 月発行
- 父の話をしましょうか ～加古さんと松居さん～
  鈴木万里（加古里子 長女）　小風さち（松居直 長女）
  660 円（税込）／54 ページ／2020 年 3 月発行
- こども・えほん・うたのこと　中川ひろたか（シンガーソング絵本ライター）
  770 円（税込）／48 ページ／2023 年 1 月発行
- 地域で母子を支える ～周産期医療の現場から～
  三石知左子（小児科医）
  770 円（税込）／36 ページ／2023 年 1 月発行

＊電子版もあります（お求めはネット書店まで）

### コトコト ことのは

NPO ブックスタートのスタッフが出合った言葉

「すべての子どもだで。そこが大切」 ―― 元公民館長 松本兵衛さんのことば

『ブックスタートの 20 年　自治体と市民が 赤ちゃんの幸せのためにつながり 実現してきたこと』（NPO ブックスタート 編）より

孤立した子育てに頑張りすぎるお母さんと子どもを公民館で見かけ、心配した松本兵衛さんは、すべての赤ちゃんを対象とするブックスタート事業に着目します。「すべてなんて無理。まずは身近な子どもからですよ」と懸念する周囲の人たちは「すべての子ども、すべての子ども」と繰り返す松本さんの姿から、次第に心を動かされていったそうです。こうして 20 年前の 2003 年、鳥取県鳥取市でブックスタートが開始されました。現在も各地で「すべて」を合言葉に活動は広がっています。

NPO ブックスタート主催
**いっしょにえほん写真コンテスト 2023 開催！**

募集期間
4 月 20 日（木）
～5 月 31 日（水）

＊応募はどなたでも！
＊詳細は当 NPO ウェブサイト、SNS にてお知らせします